

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファースト ステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308-2
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 7 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅生活時に出来ていた事、未だ行える事を維持し、また出来なかった事が声かけにより行えるようになった事など、機能の低下を防止して、生き生きとした毎日を笑顔で楽しく、共に支えあって生活したい。利用者中心であり、きらりに来て、入居して良かった、私も入りたいと思えるような信頼出来るグループホームに向かって歩みたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの職員の採用基準は、資格取得やキャリアではなく人柄を第一と考え、勤務しながらのホーム内研修や外部研修、また資格取得にも熱心に取り組んでいる。職員の温かい人柄が利用者の日々の過ごし方にも反映してほしいと考えている。業務改善をしたり、チームケアを大切にすること、またカンファレンスも重要と考えている。職員は業務の中で苦しい事態に直面しても、管理者からの適切なアドバイスで課題を解決している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームきらり

(ユニット名) うみユニット

記入者(管理者)

氏名 山本 富美子

評価完了日 21年 7月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者が心身共に輝いていた時代を思い出し、再度又人生において、泣き笑いを共にし、輝ける生活がおくれるよう、日々の生活の中で、何を望み、何をしたいのか、小さな事に気が付き、思いを察知し、職員全員が意見を出し合い、統一を図り、取り組む努力をしている。</p> <p>(外部評価) 「きらり」と輝いていた時代を大切に「きらり」と輝ける暮らしを支援するという理念は、オーナー夫妻が求める介護の本質を表現したものである。理念に沿った基本方針や運営方針も定められており、職員は利用者一人ひとりの思いを知る努力を重ね、気付きは連絡ノートに記録しケアにつなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日頃から気持ちの良い挨拶は心がけている。散歩時や買い物等で、顔みしりになったり、気軽に声を掛け合ったりの程度である。</p> <p>(外部評価) 家族の協力により親戚や友人の訪問も多く、地域とのつながりが切れないよう努力している。開設してまだ1年であるため、地域から求められる活動や役割はできるところから始めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) カンファレンス・運営推進会議等で話し合いは行っているが、まだまだ儀対策を模索中であり、地域への貢献はできていない。見学に来られる方もおられ、認知症というものや支援の方法を地域の人々に理解して頂く努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況報告や、サービスの実際、行事報告、入居状況の報告を行っている。 地域密着サービス向上に繋げると共に、グループホームきらりのあるべき姿や考えを地域に周知、啓発し「地域で支えあう」ネットワークを作りつつある。	対角線
			(外部評価) 2ヶ月に1回開催し、ホームの理念や利用者の現状を報告し、参加者から出された意見は検討のうえケアにつなげるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険制度等での不明な点やホームの運営上の事など相談できている。また市町村担当者との協働関係を築く努力も行い、介護の質の向上に向け、研修会の案内も随時頂いている。	対角線
			(外部評価) 町主催の説明会や研修会には必ず出席し、運営推進会議には町担当者にも出席してもらっている。日頃から町との関係は良好で相談もしやすく、報告書の提出や連携も密にできている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) カンファレンスで身体拘束の勉強会を実施し、日々の介護の中で、職員間で確認しながら、拘束の弊害を正しく理解し、拘束のないケアを実践している。	対角線
			(外部評価) 職員は、身体拘束について十分理解しており、帰宅願望の強い利用者には、同伴して外出するなど対処している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行っていない。言葉使いや、接し方などに注意しながら、虐待を行わない様に介護している。また、家族からの虐待があり、入居された方がいるが、現在は家族関係も良くなり、面会もされている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) まだまだ勉強不足であり、家族等に周知していないと思われる。今後、勉強会等を行いたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は日々利用者に関わる際、小さな意見や不満、苦情に対して、耳を傾け、カンファレンス等で話し合い、問題解決にあたっている。利用者さんにとって何が一番良い事であるか等も、家族の意見を伺い、要望に対して報告し、対応する努力をしている。 (外部評価) 日頃から利用者一人ひとりの思いを把握し、幸せに感じていただく介護に取り組んでいる。家族との面会時には職員も同席し、「本人にとって大切なこと」というテーマで家族から意見をいただき、改善につなげるよう努めている。	運営推進会議にも家族の参加をいただくなど、今後の積極的な取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員個々に面談等を行っているが、運営や管理に関しての建設的な意見はなかなか出ない。だが、出てきた意見に関しては検討し、業務の中・利用者の生活に反映している。 (外部評価) オーナーは、職員個々との面談を行い意見や要望を聞いている。また、職員にホームで長く勤務してもらい、介護に関する理解や技術を高めて、利用者へのケアに反映してほしいと考えているため、ホーム内研修や外部研修、また資格習得も積極的に勧めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年に一度の業務の自己評価を行い、また適宜面談を行いながら、職員の努力・実績等を把握し、今度の処遇・職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修については、管理者を中心にカンファレンス等で勉強会を行っており、外部研修については、愛媛県グループホーム連絡協議会の研修をパート職員を含め受講している。また受講者は内容を報告し共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は愛南町グループホーム協議会を立ち上げ、他のグループホームと相互交流を行い、新しい気付きや発見をする事で、ホーム内で他職員にフィールドバックを行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で書類を確認し、訪問して本人の不安な事、求めておられる事をよく聞き、納得いくよう話し合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事、不安な事、求められている事を良く聞き、まず必要としている支援を見極めながら、話し合い、受け止めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、本人家族と十分に話し合い、利用者が自宅での暮らしを希望され、グループホームに入居するより、在宅でのケアサービスを受け、自宅で暮らした方が良いと考えられる段階の場合は、まず家族やケアマネージャーと在宅で暮らす可能性を話合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に職員は“同じ目線で自然に話をする”事を心掛け、対等であるという事をしっかり意識して取り組んでいる。食事の味付けやこつ等、会話の中では地域の慣習や昔の話を色々と教わっている。一緒に過ごす中で、経験豊かな考え方や、見かた、やさしさ等、勉強になり「ありがとう」を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には近況報告だけに留まらず、家におられた頃の様子や要望等を伺いながら、「本人様が自分らしく心地よく過ごして頂けるには・・・」と家族と一緒に考えている。また定期的な電話や手紙などでも連絡を取り合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会には来て頂いているが、自宅の近くにドライブに行ったり、運動会・催し物への参加等はできていない。馴染みの人や場所との関係が途切れない様に、受診・買い物に出かけた時など、知人に声かけし、会話の時間を大切にしている。 (外部評価) 利用者全員が地元の出身であるため、受診や買い物時に知人などに会う機会も多く、利用者の楽しみになっている。馴染みの関係が途切れない良好な支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が声を掛け合う時は、見守り、トラブルが起きそうな時は、職員が入り、一緒に解決している。利用者間には良い関係が出来ており、職員は利用者同士の関わりが深まり、孤独感が無いように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も訪問して頂けるよう声かけし、出来る限り継続的な関わりが保てるようにと思っている。困った事など、相談に乗り、アドバイスも行っているが、思ったような継続的フォローは出来ていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話・関わりの中で、本人の思いをくみ取り、職員全員が一人一人の意向について関心をほらい把握しようと努めている。また常に本人の立場にたち、何をしたいのか、何を困っているのか常に思いながら介護している。 (外部評価) 入居時から面接を通して詳細な情報を得る努力をされており、入居後も意向の把握に努めている。利用者全員が食堂で過ごす際の穏やかな表情などから、一人ひとりの思いに添った生活支援がなされていることがわかる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や他機関のケアマネージャーとの情報の交換、本人・家族との会話の中で、個々の歴史や、サービス利用に至った経過を知り得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の中でチームで把握し、出来る事はして頂き、出来ない事は個々にあった出来る力を伸ばして頂く、今出来る事は継続していく努力をしている。また不穏があれば、どういった理由でそれが起きているのか、職員間で話し合い、本人に声かけも行い状況の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人・家人の意見・要望を聞きながら、職員全員で意見を出し合い、ADL等も検討しながら、アセスメントとモニタリングを基に利用者を総合的に見つけ、今利用者が、一番望まれている事は何かを考え、本人の出来る力・わかる力を暮らしの中で発見し、よりよく暮らせるような介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は3ヶ月毎に見直し、家族からの意向も確認している。カンファレンスでは、オーナーをはじめ全職員が参加し検討している。ケアプランの目標を意識しながら、積極的に介護に取り組んでいる。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 介護記録は気づきや具体的な言葉や行動を細かく記入し、よりよい介護が出来るよう実践できている。又、毎日の日誌・排泄チェック表・バイタル、食事、水分のチェック表を記録し、職員間での情報の交換を行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 気づき、対応など個人家族の記録を行い、その時のニーズに対応して、日々の生活の記録を根拠にして情報を共有し踏まえたサービスを行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域内の理容店を利用したり、消防署の協力を得て、消防訓練を行い、安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との連帯により、本人・家族の希望 時、異常時は早期往診、早期受診ができるように支援 している。	
			(外部評価) 入居時に本人や家族の受診希望を確認し、希望に添っ た支援をしている。医療機関、受診時の介助は基本的 に職員が行い、家族に結果報告を行うなど連携ができ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職と日々相談しながら、日常の健康管理や医療活 用の支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的に面会に行き、情報交換を行い、状態を把握 し、早期退院にむけて医療機関と話合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームの指針を書簡にて利用者家族に同意を得てい る。職員や主治医にも指針の周知徹底は出来ている。 家族とは主治医の意見やホームの方針も含め必要に応 じ話し合いを行っている。家族と医師、ホームで協力 しながら進めていけるよう全員で方針を共有できるよ う努めている。	
			(外部評価) 入居時に、看取りに関する指針に基づくホームでの介 護方針を家族などに説明している。開設して1年となる が、看取りの経験はまだない。	職員は、看取りに関して不安を感じているので、今後 の丁寧な研修の積み重ねに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急・緊急連絡網は出来ている。 急変時には状態の観察、報告、指示を仰ぎ、状況に応じ救急病院へ受診しており、家族や他関係機関への連絡は行えている。応急処置の訓練は今後行っていかないといけない課題と思われる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署と協働し、避難訓練、消防訓練、消火器の使い方、報告の方法などを行い、利用者も訓練に参加される。持ち出し用袋など準備が出来ていない物もあり、内容については検討中である。 (外部評価) 地元の消防団の指導のもと、夜間と昼間を想定した訓練を年2回実施している。	多くの職員が、夜間の1人勤務における緊急時の医療対応と災害時の対応に不安を抱いている。全職員が適切な対応方法を身につけるよう、繰り返し訓練を行うなど積極的な取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度、プライバシーの確保に心掛けている。ミーティングで話し合い、職員の人事評価の項目にも取り上げている。トイレ誘導時の声かけの際など、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努力している。 (外部評価) 昼食や口腔ケアなどでの声かけにも、利用者の誇りを傷つけない配慮がなされている。また、職員の人事評価に「利用者の尊厳を守る」という項目もあり、このテーマについて全職員とオーナーが年2回話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) コミュニケーションを多く取る事により意思表示が出来やすい雰囲気作りを行い、日々のスケジュールは出来るだけ利用者と話合っている。一緒に考え希望が言えるようにゆっくり、じっくりとした態度で接していくように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) やさしく、ゆったりと接し、表情やしぐさでの訴えも見逃さない細やかな心配り、気配りで一人ひとりのペースを大切にとっているが、見守り、関わりが職員のペースで進めている時があり、まだまだ努力が足りない処がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った服装をされている。自分で選べない人には声をかけて行って頂いたり、一緒に選んだりしている。好みによって選ばれる方については、出来ない処のみ介助し見守りを行う。 2か月に1回理容室で髪を切ってもらっているが、馴染みの処へ行かれる方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備、調理の下ごしらえ、味見・盛り付けなどは利用者と一緒に行っている。また職員は、利用者様と同じ食事をとり、会話をしながら、楽しく摂っている。	
			(外部評価) 職員と利用者が楽しみながら一緒に食事をしている。利用者から何度も「美味しい」という声があった。調理を手伝う利用者は限られているが、下ごしらえや味見や片付け、また、おやつ作りなど、それぞれの力を活かして役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は栄養士がたて、食事および水分摂取量については記録して栄養バランス・水分の確保に努めている。きざみ食・粥食など調理に工夫し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 長年の習慣が大きく影響していたが、毎食後の口腔ケアへの習慣がついてきた。一人ひとりの能力に応じた声かけ、誘導、介助しながら行っている。協力医療機関の歯科医の受診援助もうけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェックにより排泄パターンを把握し、一人ひとりと合った声かけ、支援を行っている。自立に向けてオムツから紙パンツ、紙パンツから布パンツ、パット対応などトイレでの排泄に努めている。一人ひとりトイレで用をたす支援や気持ち良く排泄するための工夫をしている。	
			<p>(外部評価)</p> 日中は、利用者全員が紙パンツを使用せず、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間のみ紙パンツで対応している。一人ひとりの排泄パターンを詳しく記録し、次の支援につなげる工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> なるべく下剤に頼らず、生活習慣や日々の食事を見直し牛乳・食物繊維の摂取、身体を動かす、リハビリ体操、レクリエーションを生活のなかに取り込み等を行い、朝食後のトイレ誘導を行い、自然排便に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 週2回から3回の入浴を基本としているが、体調や希望に合わせて、柔軟に対応している。入浴の苦手な利用者には、声かけの工夫をして入浴を楽しめるよう支援している。身体機能低下に応じたリフトを設置している。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者の大半が入浴を好み一番風呂の希望が多いため、職員が工夫をして、気持ちよく入浴できるよう支援している。また、リフトでの入浴ができる設備もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 一人ひとりのその日の生活状態を把握し、部屋の明るさ温度等に気を配り、気持ちよく眠られるように心がけている。また、昼間でも休息をとりたい時は、休んで頂き夜間も安心して眠って頂けるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示通りに服用する薬の説明書をファイルし、何時でも確認出来るようにしている。服薬時は日付・氏名服用方法等の確認を行い、服用後の症状の変化、日常の記録を医療関係者に情報提供し、治療・服薬調整に活かしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) おやつ作りのお手伝い、プランターの野菜作り、洗濯や洗濯物たたみ、テーブル拭き、食器の片付け、梅干作りなど、出来る力を発揮してもらっている。誕生会、花見ドライブなど、季節ごとのイベントを企画したり、レクリエーションに参加され、楽しみや気晴らしの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は昼食を持って行き食べたり、周囲を歩行するなど戸外に出て外気に触れる機会を作っているが、まだまだ工夫が必要である。 (外部評価) 利用者全員が地元の出身で、買い物や散歩や受診などで出かけて知人に会うこともある。運営推進会議の参加者から地域で開催される行事の情報を得て、外出支援に役立てている。	屋外で行きかう人を見たり、話声を聞いたり、太陽の光を浴びるなど、日常生活の中での支援について、積極的に取り組んでいくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理ができる利用者、支援の必要な利用者など、個々の利用者の力量に応じて支援している。またホーム内でレクを兼ねた買い物や喫茶を行い（おもちゃのお金）を使う試みを検討している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやり取りが出来る。取次ぎを希望される時は、職員が間に入り意思疎通が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 車椅子での移動が容易で、低い位置に手すりがあり、安全である。トイレ・浴室も清潔で気になる匂いも無いように努力している。 窓も大きく、外の景色も眺めることができる。利用者の手作り作品のチギリ絵などを飾り、生活観を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 居室の表札の周りには向日葵の花飾りを施し、季節感を感じさせる。居間の大きな窓からは外の景色がよく見える。利用者のほとんどが日中を居間で過ごされ、お喋りやちぎり絵、リハビリ体操等で楽しんでいる。夜間、熟睡されている方が多いのは、日中の過ごし方によるものと思われる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファ、椅子・テーブルなど各所に配置しており、大きな窓にて明るく、開放感がある。一人ひとりがゆっくりと時間が過ごせるよう居場所の工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具など本人と相談しながら、使い勝手の良い居心地の良い、安心して過ごせる環境作りに勤めている。また家族の写真・人形など、本人の使い慣れた物、好みの物をそれぞれ持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室に備え付きの電動式ベッド以外は、自宅からの持ち込み物である。押し入れがないのは、季節毎に家族に衣類などの入れ替えをお願いしたいと考えているからである。家族写真など馴染みの物を飾って、居心地よく過ごせる空間になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ハサミや包丁等も職員の見守りのもと、利用出来る方には使って頂き、料理や創作活動を行い、作れる喜びをかんじていただいている。また、昔裁縫で生計をたてていた方は、今でも針を使う事が出来、他者の縫物をして頂くこともある。建物内部はバリアフリーになっているが、それぞれ自分の履きやすい靴等を履き、自ら歩行訓練と言われ、外で杖や老人車を使い歩かされている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファースト ステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308-2
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 7 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅生活時に出来ていた事、未だ行える事を維持し、また出来なかった事が声かけにより行えるようになった事など、機能の低下を防止して、生き生きとした毎日を笑顔で楽しく、共に支えあって生活したい。利用者中心であり、きらりに来て、入居して良かった、私も入りたいと思えるような信頼出来るグループホームに向かって歩みたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの職員の採用基準は、資格取得やキャリアではなく人柄を第一と考え、勤務しながらのホーム内研修や外部研修、また資格取得にも熱心に取り組んでいる。職員の温かい人柄が利用者の日々の過ごし方にも反映してほしいと考えている。業務改善をしたり、チームケアを大切にすること、またカンファレンスも重要と考えている。職員は業務の中で苦しい事態に直面しても、管理者からの適切なアドバイスで課題を解決している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームきらり

(ユニット名) そらユニット

記入者(管理者)
氏名 山本 富美子

評価完了日 21年 7月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者が心身共に輝いていた時代を思い出し、再度又人生において、泣き笑いを共にし、輝ける生活がおくれるよう、日々の生活の中で、何を望み、何をしたいのか、小さな事に気が付き、思いを察知し、職員全員が意見を出し合い、統一を図り、取り組む努力をしている。</p> <p>(外部評価) 「きらり」と輝いていた時代を大切に「きらり」と輝ける暮らしを支援するという理念は、オーナー夫妻が求める介護の本質を表現したものである。理念に沿った基本方針や運営方針も定められており、職員は利用者一人ひとりの思いを知る努力を重ね、気付きは連絡ノートに記録しケアにつなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日頃から気持ちの良い挨拶は心がけている。散歩時や買い物等で、顔みしりになったり、気軽に声を掛け合ったりの程度である。</p> <p>(外部評価) 家族の協力により親戚や友人の訪問も多く、地域とのつながりが切れないよう努力している。開設してまだ1年であるため、地域から求められる活動や役割はできるところから始めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) カンファレンス・運営推進会議等で話し合いは行っているが、まだまだ儀対策を模索中であり、地域への貢献はできていない。見学に来られる方もおられ、認知症というものや支援の方法を地域の人々に理解して頂く努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況報告や、サービスの実際、行事報告、入居状況の報告を行っている。 地域密着サービス向上に繋げると共に、グループホームきらりのあるべき姿や考えを地域に周知、啓発し「地域で支えあう」ネットワークを作りつつある。	
			(外部評価) 2ヶ月に1回開催し、ホームの理念や利用者の現状を報告し、参加者から出された意見は検討のうえケアにつなげるよう取り組んでいる。	会議のテーマによっては、参加者の構成を幅広く検討してみるなど、工夫されることに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険制度等での不明な点やホームの運営上の事など相談できている。また市町村担当者との協働関係を築く努力も行い、介護の質の向上に向け、研修会の案内も随時頂いている。	
			(外部評価) 町主催の説明会や研修会には必ず出席し、運営推進会議には町担当者にも出席してもらっている。日頃から町との関係は良好で相談もしやすく、報告書の提出や連携も密にできている。	ホームの行事、特に防災訓練等に町担当者の参加を得るなど、協力関係をさらに深める取り組みに期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) カンファレンスで身体拘束の勉強会を実施し、日々の介護の中で、職員間で確認しながら、拘束の弊害を正しく理解し、拘束のないケアを実践している。	
			(外部評価) 職員は、身体拘束について十分理解しており、帰宅願望の強い利用者には、同伴して外出するなど対処している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行っていない。言葉使いや、接し方などに注意しながら、虐待を行わない様に介護している。また、家族からの虐待があり、入居された方がいるが、現在は家族関係も良くなり、面会もされている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) まだまだ勉強不足であり、家族等に周知していないと思われる。今後、勉強会等を行いたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は日々利用者に関わる際、小さな意見や不満、苦情に対して、耳を傾け、カンファレンス等で話し合い、問題解決にあたっている。利用者さんにとって何が一番良い事であるか等も、家族の意見を伺い、要望に対して報告し、対応する努力をしている。 (外部評価) 日頃から利用者一人ひとりの思いを把握し、幸せに感じていただく介護に取り組んでいる。家族との面会時には職員も同席し、「本人にとって大切なこと」というテーマで家族から意見をいただき、改善につなげるよう努めている。	運営推進会議にも家族の参加をいただくなど、今後の積極的な取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員個々に面談等は行っているが、運営や管理に関しての建設的な意見はなかなか出ない。だが、出てきた意見に関しては検討し、業務の中・利用者の生活に反映している。 (外部評価) オーナーは、職員個々との面談を行い意見や要望を聞いている。また、職員にホームで長く勤務してもらい、介護に関する理解や技術を高めて、利用者へのケアに反映してほしいと考えているため、ホーム内研修や外部研修、また資格習得も積極的に勧めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年に一度の業務の自己評価を行い、また適宜面談を行いながら、職員の努力・実績等を把握し、今度の処遇・職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修については、管理者を中心にカンファレンス等で勉強会を行っており、外部研修については、愛媛県グループホーム連絡協議会の研修をパート職員を含め受講している。また受講者は内容を報告し共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は愛南町グループホーム協議会を立ち上げ、他のグループホームと相互交流を行い、新しい気付きや発見をする事で、ホーム内で他職員にフィールドバックを行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で書類を確認し、訪問して本人の不安な事、求めておられる事をよく聞き、納得いくよう話し合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事、不安な事、求められている事を良く聞き、まず必要としている支援を見極めながら、話し合い、受け止めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、本人家族と十分に話し合い、利用者が自宅での暮らしを希望され、グループホームに入居するより、在宅でのケアサービスを受け、自宅で暮らした方が良いと考えられる段階の場合は、まず家族やケアマネジャーと在宅で暮らす可能性を話合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に職員は“同じ目線で自然に話をする”事を心掛け、対等であるという事をしっかり意識して取り組んでいる。食事の味付けやこつ等、会話の中では地域の慣習や昔の話を色々と教わっている。一緒に過ごす中で、経験豊かな考え方や、見かた、やさしさ等、勉強になり「ありがとう」を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には近況報告だけに留まらず、家におられた頃の様子や要望等を伺いながら、「本人様が自分らしく心地よく過ごして頂けるには・・・」と家族と一緒に考えている。また定期的な電話や手紙などでも連絡を取り合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会には来て頂いているが、自宅の近くにドライブに行ったり、運動会・催し物への参加等はできていない。馴染みの人や場所との関係が途切れない様に、受診・買い物に出かけた時など、知人に声かけし、会話の時間を大切にしている。 (外部評価) 利用者全員が地元の出身であるため、受診や買い物時に知人などに会う機会も多く、利用者の楽しみになっている。馴染みの関係が途切れない良好な支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が声を掛け合う時は、見守り、トラブルが起きそうな時は、職員が入り、一緒に解決している。利用者間には良い関係が出来ており、職員は利用者同士の関わりが深まり、孤独感が無いように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も訪問して頂けるよう声かけし、出来る限り継続的な関わりが保てるように思っている。困った事など、相談に乗り、アドバイスも行っているが、思ったような継続的フォローは出来ていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話・関わりの中で、本人の思いをくみ取り、職員全員が一人一人の意向について関心をほらい把握しようと努めている。また常に本人の立場にたち、何をしたいのか、何を困っているのか常に思いながら介護している。	
			(外部評価) 入居時から面接を通して詳細な情報を得る努力をされており、入居後も意向の把握に努めている。利用者全員が食堂で過ごす際の穏やかな表情などから、一人ひとりの思いに添った生活支援がなされていることがわかる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や他機関のケアマネージャーとの情報の交換、本人・家族との会話の中で、個々の歴史や、サービス利用に至った経過を知り得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の中でチームで把握し、出来る事はして頂き、出来ない事は個々にあった出来る力を伸ばして頂く、今出来る事は継続していく努力をしている。また不穏があれば、どういった理由でそれが起きているのか、職員間で話し合い、本人に声かけも行い状況の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家人の意見・要望を聞きながら、職員全員で意見を出し合い、ADL等も検討しながら、アセスメントとモニタリングを基に利用者を総合的に見つけ、今利用者が、一番望まれている事は何かを考え、本人の出来る力・わかる力を暮らしの中で発見し、よりよく暮らせるような介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画は3ヶ月毎に見直し、家族からの意向も確認している。カンファレンスでは、オーナーをはじめ全職員が参加し検討している。ケアプランの目標を意識しながら、積極的に介護に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録は気づきや具体的な言葉や行動を細かく記入し、よりよい介護が出来るよう実践できている。又、毎日の日誌・排泄チェック表・バイタル、食事、水分のチェック表を記録し、職員間での情報の交換を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 気づき、対応など個人家族の記録を行い、その時のニーズに対応して、日々の生活の記録を根拠にして情報を共有し踏まえたサービスを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域内の理容店を利用したり、消防署の協力を得て、消防訓練を行い、安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との連帯により、本人・家族の希望 時、異常時は早期往診、早期受診ができるように支援 している。	
			(外部評価) 入居時に本人や家族の受診希望を確認し、希望に添っ た支援をしている。医療機関、受診時の介助は基本的 に職員が行い、家族に結果報告を行うなど連携ができ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職と日々相談しながら、日常の健康管理や医療活 用の支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的に面会に行き、情報交換を行い、状態を把握 し、早期退院にむけて医療機関と話合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームの指針を書簡にて利用者家族に同意を得てい る。職員や主治医にも指針の周知徹底は出来ている。 家族とは主治医の意見やホームの方針も含め必要に応 じ話し合いを行っている。家族と医師、ホームで協力 しながら進めていけるよう全員で方針を共有できるよ う努めている。	
			(外部評価) 入居時に、看取りに関する指針に基づくホームでの介 護方針を家族などに説明している。開設して1年となる が、看取りの経験はまだない。	職員は、看取りに関して不安を感じているので、今後 の丁寧な研修の積み重ねに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急・緊急連絡網は出来ている。 急変時には状態の観察、報告、指示を仰ぎ、状況に応じ救急病院へ受診しており、家族や他関係機関への連絡は行えている。応急処置の訓練は今後行っていかないといけない課題と思われる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署と協働し、避難訓練、消防訓練、消火器の使い方、報告の方法などを行い、利用者も訓練に参加される。持ち出し用袋など準備が出来ていない物もあり、内容については検討中である。 (外部評価) 地元の消防団の指導のもと、夜間と昼間を想定した訓練を年2回実施している。	多くの職員が、夜間の1人勤務における緊急時の医療対応と災害時の対応に不安を抱いている。全職員が適切な対応方法を身につけるよう、繰り返し訓練を行うなど積極的な取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度、プライバシーの確保に心掛けている。ミーティングで話し合い、職員の人事評価の項目にも取り上げている。トイレ誘導時の声かけの際など、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努力している。 (外部評価) 昼食や口腔ケアなどでの声かけにも、利用者の誇りを傷つけない配慮がなされている。また、職員の人事評価に「利用者の尊厳を守る」という項目もあり、このテーマについて全職員とオーナーが年2回話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) コミュニケーションを多く取る事により意思表示が出来やすい雰囲気作りを行い、日々のスケジュールは出来るだけ利用者と話合っている。一緒に考え希望が言えるようにゆっくり、じっくりとした態度で接していくように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) やさしく、ゆったりと接し、表情やしぐさでの訴えも見逃さない細やかな心配り、気配りで一人ひとりのペースを大切にとっているが、見守り、関わりが職員のペースで進めている時があり、まだまだ努力が足りない処がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った服装をされている。自分で選べない人には声をかけて行って頂いたり、一緒に選んだりしている。好みによって選ばれる方については、出来ない処のみ介助し見守りを行う。 2か月に1回理容室で髪を切ってもらっているが、馴染みの処へ行かれる方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備、調理の下ごしらえ、味見・盛り付けなどは利用者と一緒に行っている。また職員は、利用者様と同じ食事をとり、会話をしながら、楽しく摂っている。 (外部評価) 職員と利用者が楽しみながら一緒に食事をしている。利用者から何度も「美味しい」という声があった。調理を手伝う利用者は限られているが、下ごしらえや味見や片付け、また、おやつ作りなど、それぞれの力を活かして役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は栄養士がたて、食事および水分摂取量については記録して栄養バランス・水分の確保に努めている。きざみ食・粥食など調理に工夫し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 長年の習慣が大きく影響していたが、毎食後の口腔ケアへの習慣がついてきた。一人ひとりの能力に応じた声かけ、誘導、介助しながら行っている。協力医療機関の歯科医の受診援助もうけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェックにより排泄パターンを把握し、一人ひとりと合った声かけ、支援を行っている。自立に向けてオムツから紙パンツ、紙パンツから布パンツ、パット対応などトイレでの排泄に努めている。一人ひとりトイレで用をたす支援や気持ち良く排泄するための工夫をしている。 <p>(外部評価)</p> 日中は、利用者全員が紙パンツを使用せず、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間のみ紙パンツで対応している。一人ひとりの排泄パターンを詳しく記録し、次の支援につなげる工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> なるべく下剤に頼らず、生活習慣や日々の食事を見直し牛乳・食物繊維の摂取、身体を動かす、リハビリ体操、レクリエーションを生活のなかに取り込み等を行い、朝食後のトイレ誘導を行い、自然排便に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 週2回から3回の入浴を基本としているが、体調や希望に合わせて、柔軟に対応している。入浴の苦手な利用者には、声かけの工夫をして入浴を楽しめるよう支援している。身体機能低下に応じたリフトを設置している。 <p>(外部評価)</p> 利用者の大半が入浴を好み一番風呂の希望が多いため、職員が工夫をして、気持ちよく入浴できるよう支援している。また、リフトでの入浴ができる設備もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 一人ひとりのその日の生活状態を把握し、部屋の明るさ温度等に気を配り、気持ちよく眠られるように心がけている。また、昼間でも休息をとりたい時は、休んで頂き夜間も安心して眠って頂けるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示通りに服用する薬の説明書をファイルし、何時でも確認出来るようにしている。服薬時は日付・氏名服用方法等の確認を行い、服用後の症状の変化、日常の記録を医療関係者に情報提供し、治療・服薬調整に活かしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) おやつ作りのお手伝い、プランターの野菜作り、洗濯や洗濯物たたみ、テーブル拭き、食器の片付け、梅干作りなど、出来る力を発揮してもらっている。誕生会、花見ドライブなど、季節ごとのイベントを企画したり、レクリエーションに参加され、楽しみや気晴らしの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は昼食を持って行き食べたり、周囲を歩行するなど戸外に出て外気に触れる機会を作っているが、まだまだ工夫が必要である。	
			(外部評価) 利用者全員が地元の出身で、買い物や散歩や受診などで出かけて知人に会うこともある。運営推進会議の参加者から地域で開催される行事の情報を得て、外出支援に役立てている。	屋外で行きかう人を見たり、話声を聞いたり、太陽の光を浴びるなど、日常生活の中での支援について、積極的に取り組んでいくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理ができる利用者、支援の必要な利用者など、個々の利用者の力量に応じて支援している。またホーム内でレクを兼ねた買い物や喫茶を行い（おもちゃのお金）を使う試みを検討している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやり取りが出来る。取次ぎを希望される時は、職員が間に入り意思疎通が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 車椅子での移動が容易で、低い位置に手すりがあり、安全である。トイレ・浴室も清潔で気になる匂いも無いように努力している。 窓も大きく、外の景色も眺めることができる。利用者の手作り作品のチギリ絵などを飾り、生活観を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 居室の表札の周りには向日葵の花飾りを施し、季節感を感じさせる。居間の大きな窓からは外の景色がよく見える。利用者のほとんどが日中を居間で過ごされ、お喋りやちぎり絵、リハビリ体操等で楽しんでいる。夜間、熟睡されている方が多いのは、日中の過ごし方によるものと思われる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファ、椅子・テーブルなど各所に配置しており、大きな窓にて明るく、開放感がある。一人ひとりがゆっくりと時間が過ごせるよう居場所の工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具など本人と相談しながら、使い勝手の良い居心地の良い、安心して過ごせる環境作りに勤めている。また家族の写真・人形など、本人の使い慣れた物、好みの物をそれぞれ持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室に備え付きの電動式ベッド以外は、自宅からの持ち込み物である。押し入れがないのは、季節毎に家族に衣類などの入れ替えをお願いしたいと考えているからである。家族写真など馴染みの物を飾って、居心地よく過ごせる空間になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ハサミや包丁等も職員の見守りのもと、利用出来る方には使って頂き、料理や創作活動を行い、作れる喜びをかんじていただいている。また、昔裁縫で生計をたてていた方は、今でも針を使う事が出来、他者の縫物をして頂くこともある。建物内部はバリアフリーになっているが、それぞれ自分の履きやすい靴等を履き、自ら歩行訓練と言われ、外で杖や老人車を使い歩かされている。</p>	